

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

文化財を資源とした交流エリア形成プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

群馬県北群馬郡吉岡町

3 地域再生計画の区域

群馬県北群馬郡吉岡町の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地域の現状

吉岡町は、群馬県のほぼ中央に位置し、榛名山麓が形成する火山扇状地の展開の中に、船尾滝をはじめ、利根川などの河川、榛名山の南東山麓の緑など、豊かな水と緑に恵まれた自然環境に包まれている。面積は 20.46 k m²と群馬県内で3番目に小さく、東西約 10km、南北約 6.5km の北西部に突出した形状をしている。

また本町は、地方中心都市として発展する前橋市、高崎市及び渋川市に囲まれ、恵まれた地理的条件の中で、これらの都市にアクセスする上毛大橋や吉岡バイパス、国道 17 号前橋渋川バイパス、県道高崎渋川バイパス等の幹線交通網の整備が進んだことで交通の利便性が増したため、大型店の進出など、市街化傾向が顕著に見られる。

こうした背景により、本町は人口減少社会においてもなお人口増加を続け、平成 17 年以降の人口増加率は群馬県下で 1 位となり、総人口も 1975 年の 10,160 人から 2015 年の 21,080 人へと、この 40 年間で約 2 倍に増加している。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2050 年頃まで本町の総人口は増え続けるが、その後は減少に転じる見込みとなっている。

平成 27 年度に策定した本町の人口ビジョンでは、「町の魅力を高め、定住人口を増やす」という方向性を示し、総合戦略に位置づけられた各種事業を展開することにより、将来にわたって人口増加を続ける町を目指している。その 1 つの視点が、現在住んでいる人が「住みやすい」と感じる町づくりを進めることにより、新たに「吉岡町に住みたい」という人を呼び込み、将来にわたって「吉岡町に住み続けたい」と思う人を増やしていく移住・定住策となる。

4-2 地域の課題

本町では、人口増加に伴い、住民の交流拠点となる施設が不足するとともに、人口ビジョン策定時の住民アンケート結果によると、人口の約3分の2が移住者となり、新住民と既存住民の混在化も進む中で住民同士の交流は希薄化しつつある。このような状況において、将来的に転出を抑制し定住者を増やしていくためには、改めて住民に本町の地域資源を認識してもらうことにより、郷土理解を深め地域への愛着心を醸成することが必要となる。こうした取組は、「よしおか再発見プロジェクト」の中で実施している「よしおか再発見ウォーク」などにより、一定の成果を上げているが、更に多くの住民に地域資源を再認識してもらうための新たな施策も必要とされている。

また、地域資源を活用した施策は、第5次吉岡町総合計画で位置づけている「渋川～伊香保～吉岡観光トライアングル」による観光振興を図る上でも重要視されている。本町は、道路アクセスはいいものの、他市町村の観光地への通過地点となっている傾向にあり、今後どのように町内での周遊・滞在を促していくかが観光施策上の大きな課題となっている。平成29年度末には駒寄スマートインターチェンジ大型車対応化整備が完成する予定となっており、今後、首都圏から100km圏内の本インターを利用して近隣の観光地を訪れる大型バス等が多く行き交うことが予想されていることから、新たに域外から人を呼び込むための交流エリアの形成が必要である。

4-3 地域の目標

町内の豊富な文化財を有効活用する交流エリアを形成し、「よしおか再発見プロジェクト」と連動させながら地域資源を磨き上げ、本町の特色である古墳や養蚕などの歴史文化に関する情報発信や各種交流事業を通じて、域外からの新たな人の流れを呼び込み、交流人口や町内周遊・滞在の拡大を目指すものである。併せて、本町は移住者が多いことから、改めて住民に地域資源を認識してもらうことにより郷土愛の醸成を図り、定住を促進する。

【数値目標】

事業	文化財を資源とした交流エリア形成プロジェクト		年月
	KPI	文化財施設利用者	
申請時	—	—	H29.3
初年度	—	—	H30.3
2年目	1,000人	620,000人	H31.3
3年目	1,500人	625,000人	H32.3

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2 (3) に記載

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

(1) 事業名：文化財を資源とした交流エリア形成プロジェクト

(2) 事業区分：観光業の振興

(3) 事業の目的・内容

(目的)

八幡山公園グラウンドの再整備計画に伴い、老朽化した文化財施設を八幡山公園の一角に移転させ、隣接する南下古墳公園と一体的な施設活用を推進する。これにより、町内の豊富な文化財を有効活用する交流エリアを形成し、「よしおか再発見プロジェクト」と連動させながら地域資源を磨き上げ、本町の特色である古墳や養蚕などの歴史文化に関する情報発信や各種交流事業を通じて、域外からの新たな人の流れを呼び込み、交流人口や町内周遊・滞在の拡大を目指すものである。併せて、本町は移住者が多いことから、改めて住民に地域資源を認識してもらうことにより郷土愛の醸成を図り、定住を促進する。

(事業の内容)

現行の文化財施設は、プレハブ造で老朽化も著しく、また展示スペースもないため、一般向けの見学施設としては活用できていない状況であるが、今後拡張予定の八幡山公園の一角に移転させ、隣接する南下古墳公園と一体的な施設活用を図り、歴史文化の情報発信エリアとして整備する。

本施設では、見学者向けの展示スペースを設け、吉岡町の歴史が概観できるように文化財を展示する。特に古墳文化と養蚕文化については、重要な文化財が多いためテーマを定めた展示を行う。

古墳文化については、全国的にも希少価値の高い正八角形墳の三津屋古墳や南下古墳群などの町内各地に点在する古墳の解説のほか、群馬県が推進する古代東国文化の魅力発信事業との連携を図りながら情報発信強化に努める。

養蚕文化については、かつて養蚕が盛んに営まれていた時代の農機

具を展示するとともに、「ぐんま絹遺産」として登録されている本町の養蚕に関する史跡や、「蚕養育手鑑」（江戸時代に民間の蚕書として初めてまとめた書籍）により日本の養蚕の発展に貢献した馬場重久の足跡のほか、平成26年に世界遺産登録された富岡製糸場との関係性等についても紹介する。

また、歴史散歩の会等を中心とした観光ボランティアを養成し、本施設を訪れて歴史文化に興味を持った人に対して史跡等を巡る観光案内を実施したり、史跡案内等のパンフレットを作成することより町内周遊を促進し、将来的には道の駅よしおか温泉等の観光施設や「渋川～伊香保～吉岡観光トライアングル」事業などとも結び付け、新たな観光ルートの創設につなげていく。

さらに、町内外から多くの人を集めるための交流事業として、本施設において小学生の社会科見学や勾玉づくり及び土器づくりなどの体験教室、古墳文化に関する講演会等を開催したり、南下古墳公園において古代生活体験教室等を実施する。また、高齢化や移住者の増加に伴い、新住民と既存住民の混在化が進む中で伝承が憂慮されている獅子舞や太々神楽、八木節、上州吉岡船尾太鼓等の郷土芸能の伝承活動を促進するため、各種交流事業の開催時などに実演の場を設けて町内外にPRを図る。

→各年度の事業の内容

初年度) 老朽化した既存の文化財施設を今後拡張予定の八幡山公園の一角に移転整備する。

2年目) 移転整備した文化財施設を歴史文化の交流拠点として位置づけ、小学生の社会科見学や勾玉づくり教室等の交流事業を開催するとともに、史跡案内等のパンフレットを作成する。また、各種交流事業の開催時などに獅子舞や太々神楽、八木節、上州吉岡船尾太鼓等の郷土芸能の実演の場を設けて町内外にPRを図る。

3年目) 2年目の実施内容に加えて、土器づくり教室、古代生活体験教室、古墳文化に関する講演会等の交流事業や観光ボランティアによる観光案内を実施する。

(4) 地方版総合戦略における位置付け

吉岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略においては、「地域資源を活かした産業や交流を応援するまち」を基本目標3として設定し、地域資源の発掘・活用と「吉岡の魅力」の情報発信を図り、「地域を誇り

に思い、魅力を発信するまちづくり」を推進していくことを定めており、本計画は、これらを総合的に実現するものである。また、この基本目標3のKPI（重要業績評価指標）として、道の駅年間利用者数(平成26年度：延431,000人→平成31年度：延440,000人)及びホームページ年間閲覧数(平成26年度：141,481件→平成31年度：160,000件)を設定しており、本計画はこの目標の達成に寄与するものである。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標（KPI（重要業績評価指標））

事業	文化財を資源とした交流エリア形成プロジェクト		年月
KPI	文化財施設利用者	観光入込客数	
申請時	—	—	H29.3
初年度	—	—	H30.3
2年目	1,000人	620,000人	H31.3
3年目	1,500人	625,000人	H32.3

(6) 事業費

(単位：千円)

	年度	H29	H30	H31	合計
		事業費計	57,305	386	385
区 分	工事請負費	51,516	0	0	51,516
	委託料	5,789	0	0	5,789
	需用費	0	362	315	677
	報償費	0	24	70	94

(7) 申請時点での寄附の見込み

年度	H29
法人名	㈱ヤマダ電機
見込み額（千円）	30,000

(8) 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

（評価の方法・体制）

毎年度、3月末時点のKPIの達成状況を総務政策課が取りまとめをし、吉岡町商工会長、北群渋川農業協同組合吉岡支所長、渋川行政県税事務所長、高崎経済大学教授、群馬銀行吉岡支店長、吉岡町自治会連合会長等の有識者で組織する吉岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会において効果検証及び評価を行う。また、検証結果に

については、議会に報告し、必要に応じて地方版総合戦略や今後の事業方針に反映させる。

(効果検証の時期)

毎年6月頃に吉岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会において、K P Iの達成状況や事業の効果の検証及び評価を行う。

(公表の方法)

検証結果を毎年度、町ホームページで公表する。

(9) 事業期間：平成29年4月から平成32年3月

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 「よしおか再発見」プロジェクト

事業概要： 町内に所在する様々な地域資源を「よしおか再発見ウォーク」や「まち自慢フォトコンテスト」などにより再認識し、磨き上げ、本町のシンボルとしてPRするとともに、渋川市との連携を深めながら「渋川～伊香保～吉岡観光トライアングル」を構築し、交流人口の拡大を図る。

事業主体：群馬県北群馬郡吉岡町

事業期間：平成28年度から平成32年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

毎年度、3月末時点のK P Iの達成状況を総務政策課が取りまとめをし、吉岡町商工会長、北群渋川農業協同組合吉岡支所長、渋川行政県税事務所長、高崎経済大学教授、群馬銀行吉岡支店長、吉岡町自治会連合会長等の有識者で組織する吉岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会において効果検証及び評価を行う。また、検証結果については、議会に報告し、必要に応じて地方版総合戦略

や今後の事業方針に反映させる。

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

毎年6月頃に吉岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会において、KPIの達成状況や事業の効果の検証及び評価を行う。

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

検証結果を毎年度、町ホームページで公表する。